

原 著

循環器多項目検診受診者と未受診者の健康に対する意識

金野真美子* 田村 真美**

循環器疾患の予防には、生活習慣の改善が不可欠であり、検診事後指導が重要である。指導の効果等もいくつか報告されているが、未受診者の健康に対する意識や保健行動については把握されていない。

本研究では前沢町白山地区における循環器多項目検診の受診者と未受診者について健康に対する意識と保健行動についてアンケート調査を行なった。その結果、受診者では未受診者に比較して検診の必要性に対する認識が高く、積極的な保健行動の実行割合も高いことが明らかとなった。

キーワード：循環器検診，検診受診者，検診未受診者，保健行動

I はじめに

我が国の老人保健法では、健康保持のために重要な壮年期からの疾病の予防及び健康管理が、保健事業の一つとして位置づけられている。これに基づき前沢町では、脳卒中・心臓病などの循環器疾患を予防する対策の一環として、循環器多項目検診を重点事業としている。循環器疾患は長い間の生活習慣と深い関わりのある疾患であり、循環器疾患を予防するためには、生活習慣を改善することが不可欠である。そのため、保健事業の実施にあたっては単に検診より医療を要する者を発見するだけでなく、住民の健康に関する関心を高め、自己管理が行えるような働きかけが重要となってくる。すなわち、検診の結果、生活習慣に関する保健指導、健康管理に関する正しい知識の普及を行なうことの必要な者が、これらのことを意識し、望ましい保健行動をとるようにする働きかけが必要である。

前沢町の昭和55年度から58年度の4年間の循環器多項目検診受診者のうち所見があった者を対象に、生活環境並びに健康管理状況等の実態調査が行なわれている。その結果報告では、有所見者は健康維持のため何かを実行している者や、食生活

に注意している者の割合が高く、健康について相当意識している。¹⁾しかし、検診受診と未受診者とは健康に関する意識が行動をどのように結びつけているかについては把握されていない。

そこで、今回の研究において、循環器多項目検診者と未受診者の、健康に対する意識及び保健行動についてのアンケート調査を行ない保健事業推進のために有用な資料を得たのでここに報告する。

II 方 法

1. 概 況

1) 人口・世帯

前沢町(昭和62年)は、人口16,130、世帯数3,784戸で、そのうち白山地区は人口1,972、世帯数425戸である。老年人口は2,547、老年化指数81.5で、岩手県の老年化指数58.2を大きく上回っている。

2) 死亡状況

昭和62年の全死亡に占める三大死因の死亡割合は、1位悪性新生物(29.3%)、2位心疾患(25.8%)、3位脳血管疾患(8.8%)である²⁾。

2. 循環器多項目検診の実施状況

循環器多項目検診は、表1のような体制で実施されている。昭和62年度の実診率は、12.1%であった。

* 岩手県立衛生学院保健学科昭和63年度実習生(現久慈保健所)

** 岩手県立衛生学院保健学科昭和63年度実習生(現県立金ヶ崎高等学校)

表1 循環器多項目検診の実施体制

1. 実施期間 年1回 6～8日間にわたり実施
2. 対象の範囲、対象の把握方法
 - ・35才以上の者に個人通知により受診を勧奨している。
 - ・検診申し込み取りまとめ時、通院中、ねたきり、職場受診者等を把握し、対象から差し引いている。
3. 検診委託機関 岩手県予防医学協会
4. 実施場所 保健センター、公民館
5. 検査内容 問診・血圧・眼底・心電図・検尿・血液検査（肝機能検査・貧血・血中脂肪・その他）
6. 料 金

40才	500円	
41才以上	1,000円	当日会場で徴収
40才未満	1,500円	

 - ※昭和63年度は、ヘルスパイオニアタウン事業の一貫として白山地区の住民は500円
7. 検診結果の通知方法
 - ・結果説明会開催時に配布
 - ・欠席者に対しては「異常なし」は郵送で、その他は訪問または、健康相談時に配布
8. 検診後の対策
 - ・予防医学協会の集団指導、医師、保健婦等の個人指導

3. 調査対象及び方法

対象は前沢町白山地区の40才以上70才未満の住民約1,000人のうち、内科的治療を受けている者、職場検診が充実している職場で働いている者及び、昭和62年・63年度に人間ドックを受けたことのある者を除いた508名とした。対象者508名のうち、昭和62年・63年度に循環器多項目検診を受けたことがある者168名を受診群、受けたことがない者340名を未受診群とした。対象者の健康に関する意識について質問紙（付録）を用いて調査し、配布・回収は保健推進委員に依頼した。なお質問紙は、配布3日後に回収した。質問紙の回収率は97.3%、有効回答は243で、受診群が82名、未受診群が161名であった。

4. 調査項目

調査項目は、年齢・性・職業などの一般的属性、過去における健康状態、実行している保健行動、食生活、喫煙、飲酒、検診体制、検診の必要性についてである。

III 結 果

1. 対象者の特性

回答者の特徴をみるため、受診群82名、未受診

群161名について、各々カテゴリー別に実数とその比率を求めたのが表2である。年齢別にみると、受診群では50代が45.1%、未受診群では40代が44.1%と多かった。両群とも自営業がそれぞれ76.8%、47.8%と多く、会社員の割合は受診群3.6%に対し、未受診群33.5%と未受診群の方に多かった。家族歴あり（家族中に心臓病、高血圧、脳卒中、糖尿病の病気にかかったことのある人がいる）の割合は、受診群58.5%未受診群38.5%であったが、性・既往歴（今までに心臓病・高血圧・脳卒中・糖尿病だと言われたことがある）、健康状態（健康でないと感じることがあるか否か）については、両群にほとんど差がなかった。

2. 結果の分析

普段の生活、食生活で気をつけていること、喫煙・飲酒状況・循環器多項目検診の必要性の認識、望ましい受診間隔及び検診体制に対する意見について、次のような結果が得られた。

1) 普段の生活について

普段の生活について保健行動9項目の実行状況を、「いつもしている」「時々している」「ほとんどしていない」「全くしていない」の4つのカテゴリー一別にみたのが、図1である。「いつもしている」

表2 対象者の特性

項目、カテゴリー	総数		受診群		未受診群		
	実数	%	実数	%	実数	%	
性	男	118	48.6	40	48.8	78	48.4
	女	125	51.4	42	51.2	83	51.6
年齢	40~49才	88	36.2	17	20.7	71	44.1
	50~59才	92	37.9	37	45.1	55	34.2
	60~69才	63	25.9	28	34.2	35	21.7
職業	自営業	140	57.6	63	76.8	77	47.8
	会社員	57	23.5	3	3.6	54	33.5
	専業主婦	23	9.5	8	9.8	15	9.3
	無職	12	4.9	4	4.9	8	5.0
	その他	11	4.5	4	4.9	7	4.4
既往歴	あり	57	23.5	17	20.7	40	24.8
	なし	186	76.5	65	79.3	121	73.2
家族歴	あり	110	45.3	48	58.5	62	38.5
	なし	133	54.7	34	41.5	99	61.5
健康状態	不良	176	72.4	58	70.7	114	70.8
	良	67	27.6	24	29.3	47	29.2

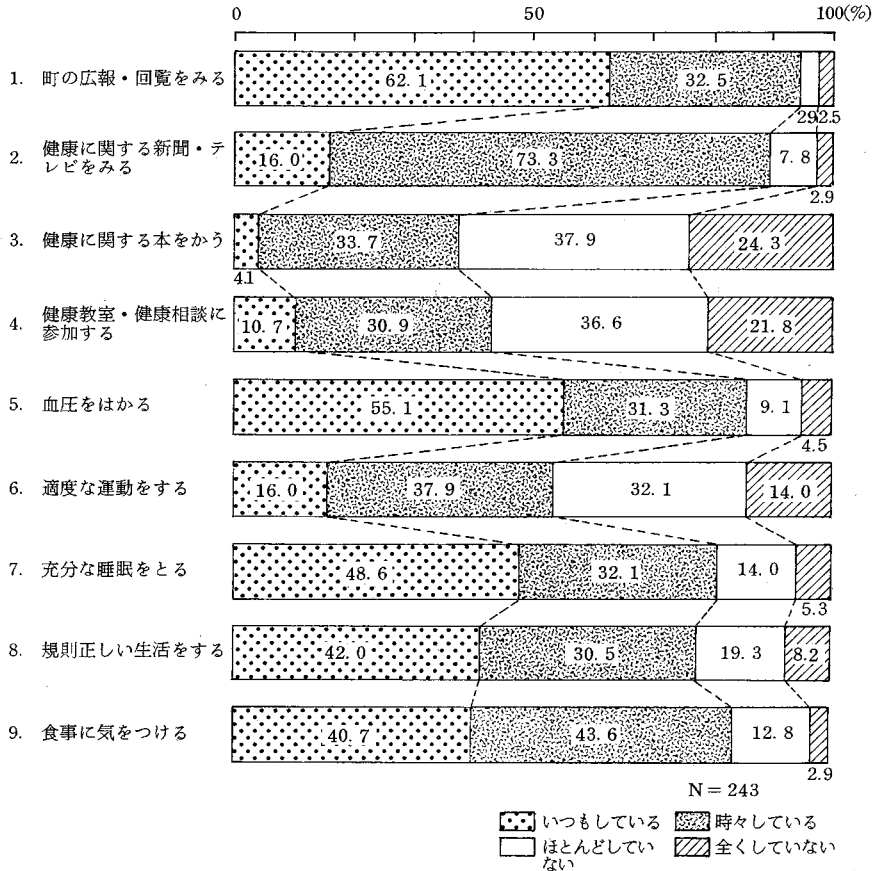


図1 普段の生活

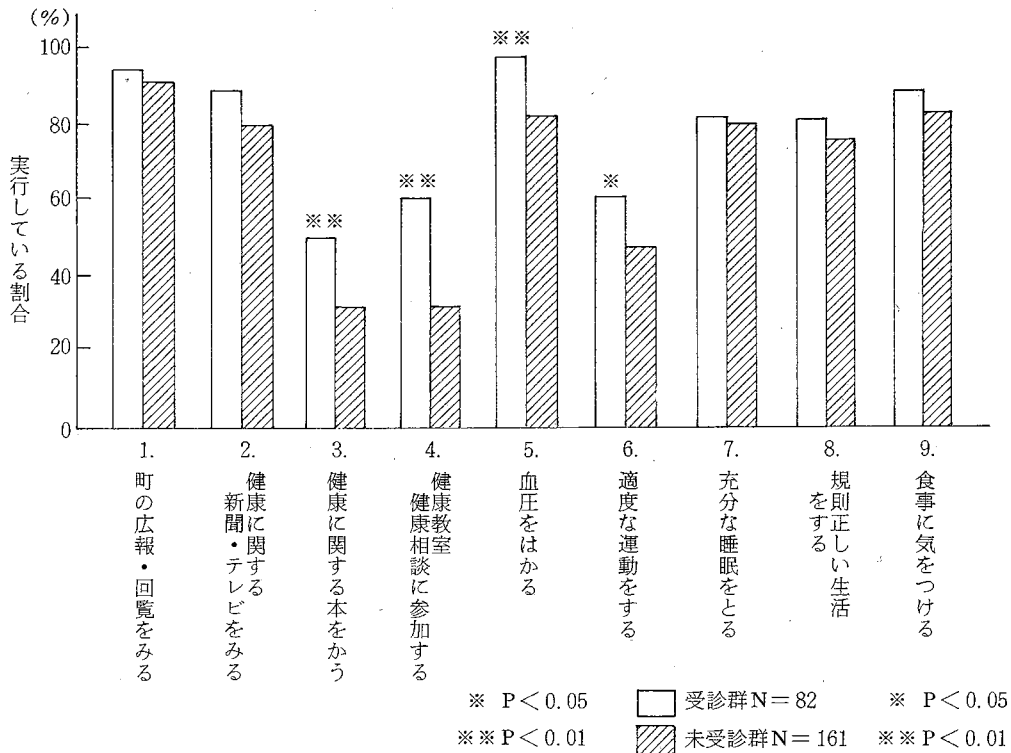


図2 普段の生活

割合が高いのは、「町の広報、回覧をみる」62.1%、「血圧をはかる」55.1%、「十分な睡眠をとる」48.6%の3つの保健行動であった。一方、「全くしていない」割合が高い保健行動は、「健康に関する本をかう」24.3%、「健康教室・健康相談に参加する」21.8%、「適度な運動をする」14.1%であった。

「いつもしている」「時々している」の2つを合わせ、実行している者の割合をみると、「健康に関する本をかう」が47.8%、「健康教室、健康相談に参加する」が41.6%、「適度な運動をする」が53.9%と、実行割合は55.0%以下であった。他の保健行動6項目では、実行している割合がほぼ80.0%を超えていた。しかし、「健康に関する新聞、テレビをみる」では、「いつもしている」割合が16.0%であるのに比べ、「時々している」が73.3%とかなり高くなっていった。

対象者の普段の生活を9項目の保健行動について、受診群と未受診群の実行割合を比較したものが、図2である。

「健康に関する本をかう」では、受診群50.0%に対し、未受診群31.7%、「健康教室、健康相談に参加する」では受診群58.6%に対し、未受診群32.9%、さらに「血圧をはかる」では受診群97.5%に対し、未受診群80.7%であり、3つの保健行動で受診群の方が実行している割合が高く、 χ^2 -検定で有意差が認められた。(P < 0.01) また、「適度な運動をする」では、実行している割合が受診群63.4%に対し、未受診群49.1%であり、有意水準5%以下で有意差が認められた。

「十分な睡眠をとる」「規則正しい生活をする」「食事に気をつける」の3項目は、受診群の方が実行している割合はわずかに高い傾向がみられたが、統計的有意差は認められなかった。

さらに、性、年齢、既往歴の有無・家族歴の有無・健康状態の5つの変数について、受診群と未受診群を比較したところ、次の結果を得た。

性別にみると男性では、「健康に関する本をかう」の項目で、受診群45.0%に対し、未受診群31.6%

と、受診群の方が実行している割合が高く、有意水準5%以下で有意の差が認められた。(図3-1)

女性についてみると、「健康に関する本をかう」が受診群54.7%、未受診群39.7%、「健康教室、健康相談に参加する」が受診群73.8%、未受診群43.4%、「血圧をはかる」が受診群95.0%、未受診群79.5%であり、3つの保健行動の実行割合に、有意水準5%以下で差が認められた。(図3-2)

既往歴ありの者についてみると(図4-1)、受診群では9つの保健行動いずれも実行している割合が70%を超えていた。受診群と未受診群の実行割合を比較すると、「健康教室・健康相談に参加する」は受診群76.5%に対し、未受診群47.5%、「規則正しい生活をする」では受診群88.3%に対し、未受診群54.2%と、受診群の実行割合が高く、有意差が認められた($P < 0.05$)。

既往歴なしの者についてみると(図4-2)、「健康に関する本をかう」は受診群46.2%に対し、未受診群26.5%、「血圧をはかる」は受診群96.9%に対し、未受診群80.5%であり、受診群の実行割合が有意に高かった($P < 0.01$)。また、「健康教室・健康相談に参加する」の実行割合も、有意水準5%以下で有意差が認められた。(受診群53.9%、未受診群31.4%)

健康状態不良の者を見ると(図5-1)、「健康に関する本をかう」は受診群56.9%に対し、未受診群31.6%、「健康教室・健康相談に参加する」は受診群58.6%に対し、未受診群39.1%であり、受診群の実行割合が高く、有意差が認められた。 $(P < 0.01)$ また、「血圧をはかる」では受診群96.5%に対し、未受診群80.5%、「規則正しい生活をする」では受診群82.8%に対し、未受診群67.6%であり、受診群の実行割合が高く、有意の差が認められた。 $(P < 0.05)$

健康状態良の者では(図5-2)、「血圧をはかる」が受診群96.0%に対し、未受診群79.5%であり、有意の差が認められた。 $(P < 0.05)$

年齢別にみると40代では、「健康教室・健康相談に参加する」は受診群47.1%、未受診群45.2%で「適度な運動をする」は受診群47.1%、未受診群45.2

%で、この2つの保健行動で実行している割合が両群とも50%以下であった。保健行動の実行割合を両群で比較すると、「健康に関する本をかう」が受診群64.7%に対し、未受診群27.7%であり、有意水準1%以下で差が認められた。また、「規則正しい生活をする」は受診群94.1%に対し、未受診群54.4%であり、有意水準5%以下で差が認められた。

50代では、「血圧をはかる」が受診群97.0%であるのに対し、未受診群は68.5%と、受診群の実行割合が高く、有意差が認められた。 $(P < 0.01)$

60代では、9つの保健行動いずれについても、両群の間に統計的有意差は認められなかった。

家族歴ありの者では、「健康に関する本をかう」が受診群60.5%に対し、未受診群32.2%で実行している割合は受診群の方が有意に高かった。 $(P < 0.01)$ また、「健康教室・健康相談に参加する」では受診群62.5%、未受診群42.0%と、有意水準5%以下で有意差が認められた。

家族歴なしの者では、「血圧をはかる」が受診群97.0%に対し、未受診群69.0%であり、有意水準1%以下で有意差が認められた。

2) 食生活で気をつけていること。

食生活に関する12項目について気をつけている割合をみたのが表3である。

総数243名について気をつけている割合をみると、「野菜をとる」75.3%、「3食規則正しくとる」64.1%、「魚や肉をとるようにしている」50.2%であるのに対し、「つけ物の量をへらした」16.9%、「味そ汁の量をへらした」21.8%、「動物性脂肪をとりすぎない」24.3%と少数であった。受診群、未受診群別に各項目の割合をみると、両群共に「野菜をとる」「3食規則正しくとる」「魚や肉をとるようにしている」の順で多かった。さらに各項目について、両群の実行している割合を比較すると、「3食規則正しくとる」($P < 0.01$)、「動物性脂肪をとりすぎない」($P < 0.05$)の2項目のみで、受診群が多かった。

次に、性・年齢・既往歴・家族歴・健康状態の5つの変数について、両群の実行している割合を

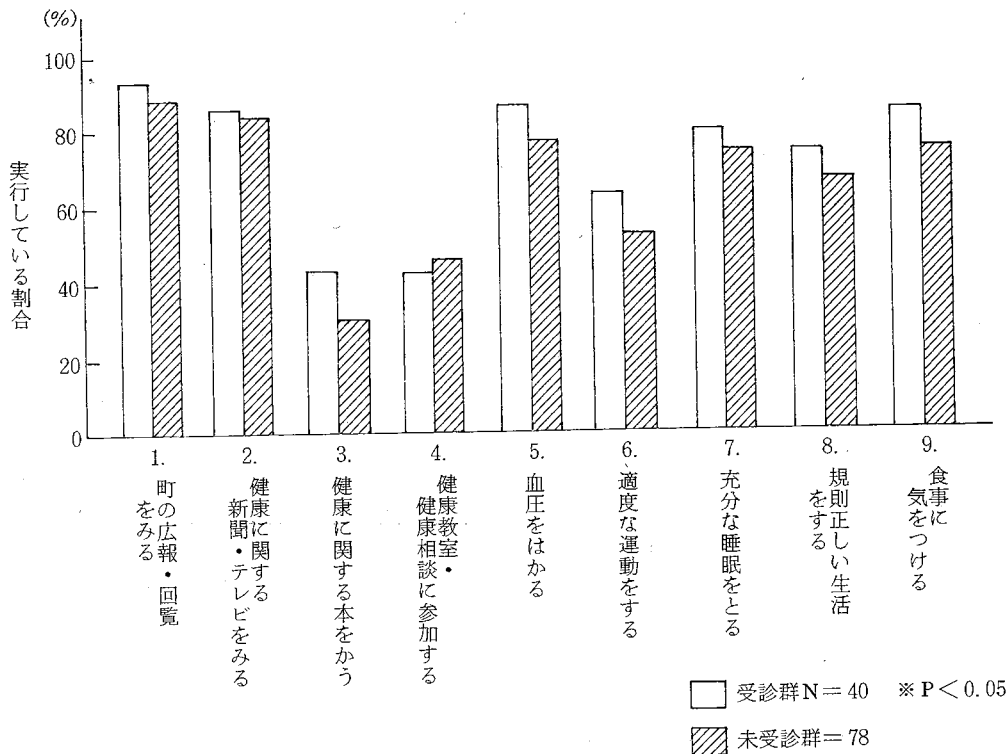


図3-1 普段の生活(男)

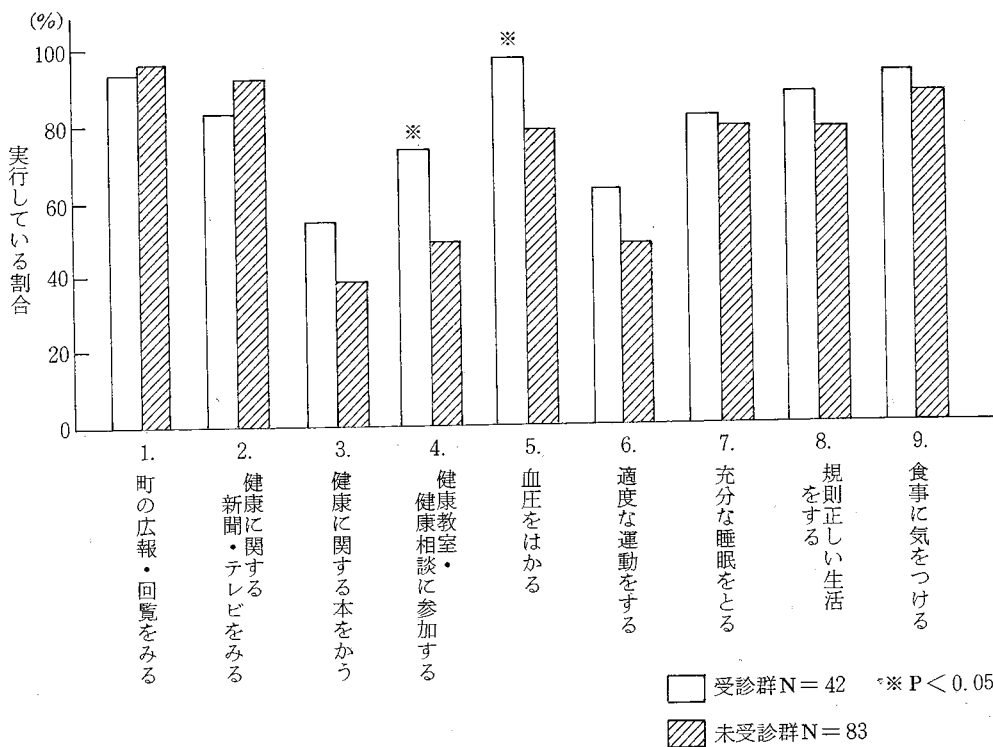


図3-2 普段の生活(女)

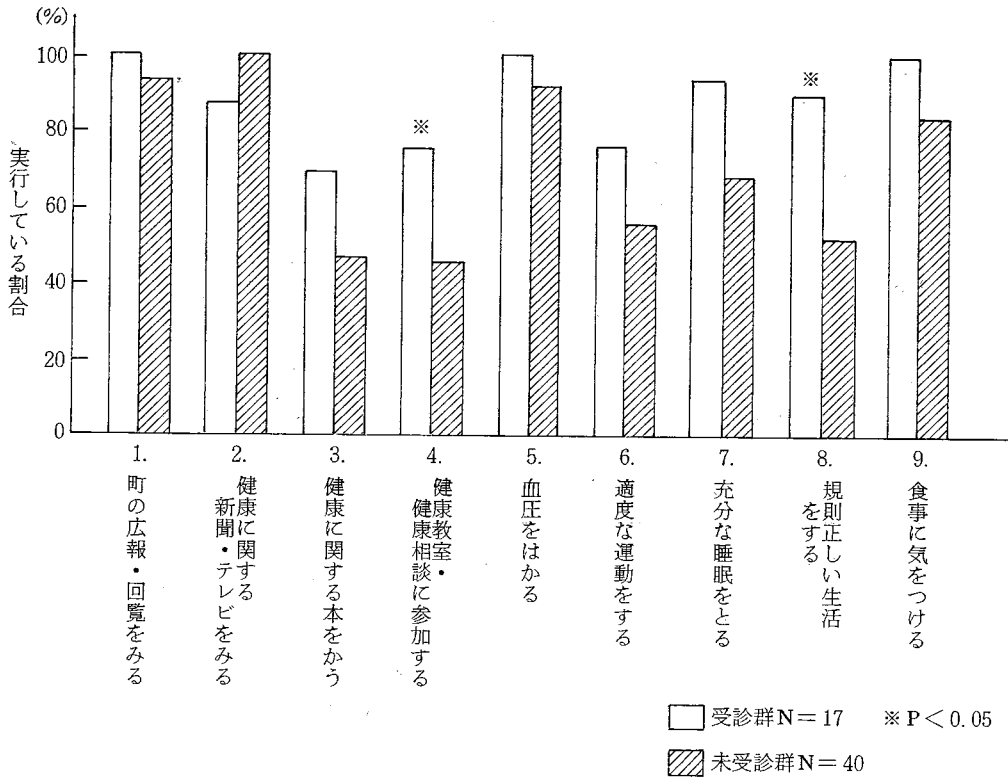


図4-1 普段の生活(既往歴あり)

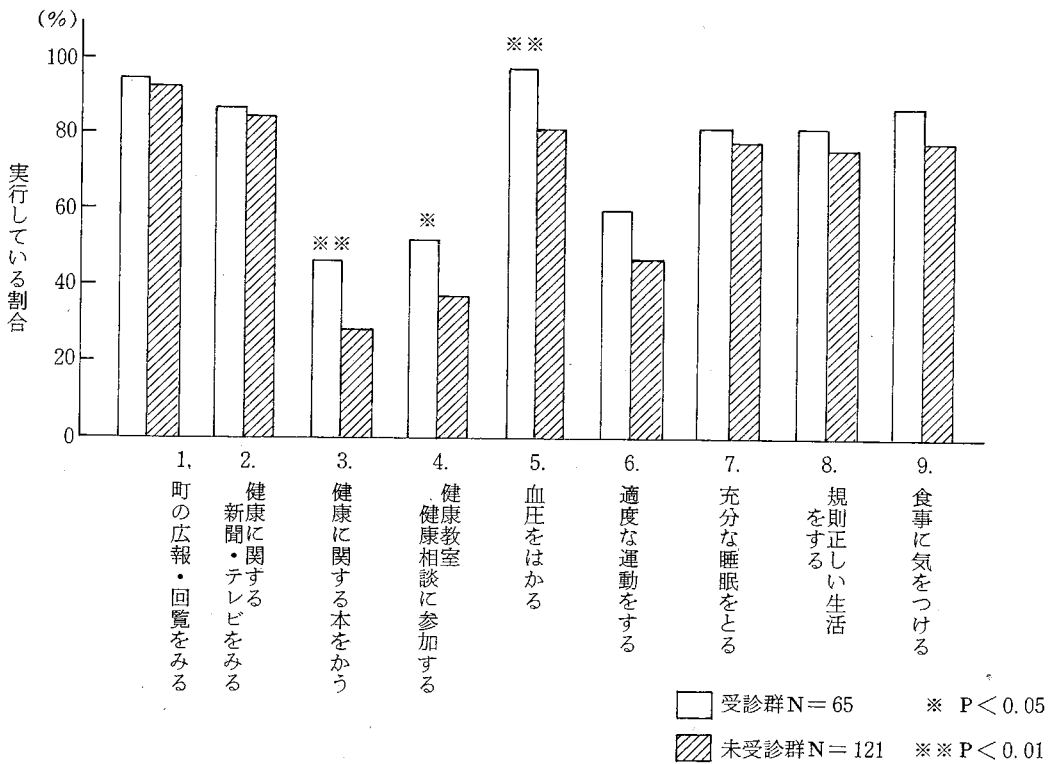


図4-2 普段の生活(既往歴なし)

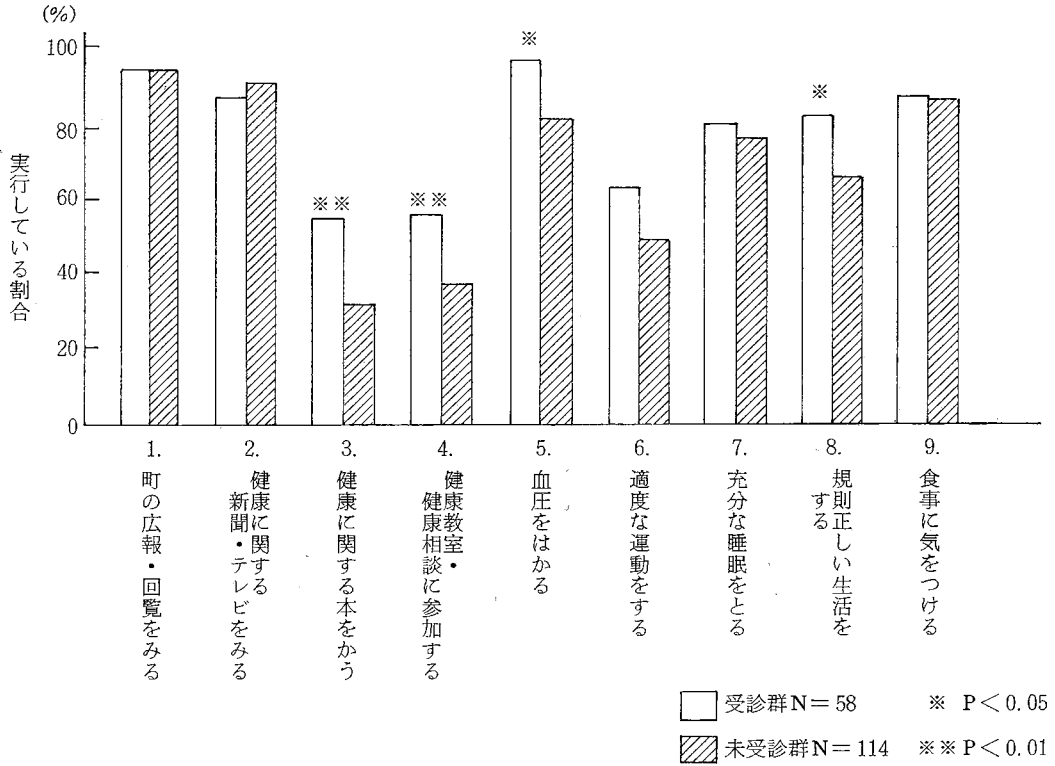


図5-1 普段の生活（健康状態不良）

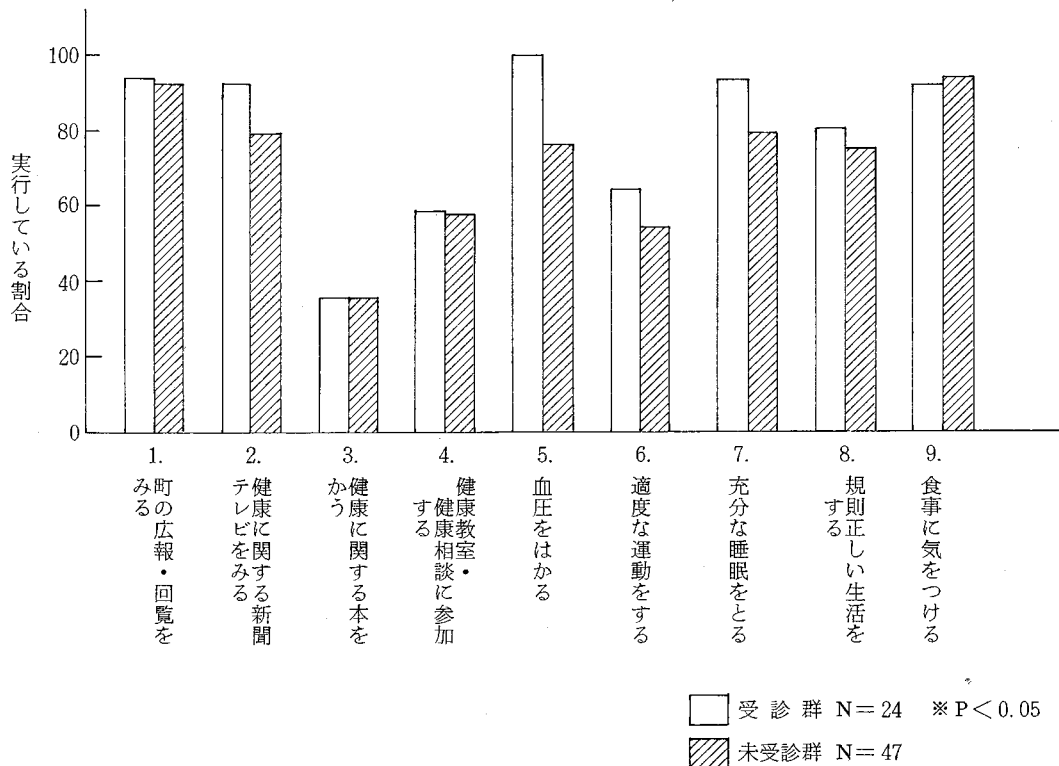


図5-2 普段の生活（健康状態良）

表3 食生活で気をつけていること (%)

項	目	総数 N=243	受診群 N=82	未受診群 N=161
1	3食規則正しくとる	64.1	***79.3	59.7
2	間食をひかえている	27.2	25.6	28.0
3	腹8分目を心がけている	44.9	47.6	43.4
4	味付をうすくしている	46.1	50.0	44.3
5	味そ汁の量をへらした	21.8	23.2	20.9
6	つけ物の量をへらした	16.9	22.0	14.5
7	糖分をとりすぎない	35.8	37.8	34.5
8	動物性脂肪をとりすぎない	24.3	*31.7	20.3
9	野菜をとる	75.3	80.5	72.6
10	魚や肉をとるようにしている	50.2	54.9	47.7
11	全く気をつけていない	5.3	7.3	4.6
12	その他	1.2	0	1.9

*P<0.05 ***P<0.01 重複回答

表4 多項目検診の必要性

	総数 N = 234		受診群 N = 82		未受診群 N = 161	
	実数	%	実数	%	実数	%
必要	205	84.4	79	***96.3	126	78.6
不必要	38	15.6	3	3.7	35	***21.4

***P<0.01

比較した。「3食規則正しくとる」の項目については、男女、50代、既往歴あり、健康不良で、受診群が有意に高かった。「間食をひかえている」では40代、「腹8分目を心がけている」では既往歴ありとなしに、「野菜をとる」では既往歴ありで、有意差が認められた。その他の項目では、有意差は認められなかった。

3) 喫煙・飲酒について

喫煙者は75名であり、両群でその割合を比較すると、受診群では29.3%、未受診群では31.9%と、ほとんど差が認められなかった。また、喫煙に対する考えをみると、「本数を減らしたい」は受診群37.5%、未受診群36.0%、「やめられない」は受診群45.8%、未受診群46.5%であるのに対し、「やめたいと思わない」が受診群16.7%、未受診群17.4%と低かった。

飲酒者は109名であり、両群でその割合を比較すると、受診群47.5%に対し、未受診群は43.3%で、両群の間にほとんど差が認められなかった。飲酒者の飲酒に対する考えをみると、「やめたいと思わない」は、受診群48.7%、未受診群39.4%と、両

群とも高い割合を占めていた。次に「量を減らしたい」では受診群38.5%、未受診群36.3%、「やめたいと思うがやめられない」では受診群12.8%、未受診群29.0%となっていた。飲酒に対する考えについて、両群の間にほとんど差は認められなかった。

4) 循環器多項目検診の必要性の認識について

検診の必要性の認識について受診群と未受診群の割合を比較したのが表4である。受診群82名、未受診群161名のうち、検診が「不必要」と考えている者は、受診群3.7%に対し、未受診群では21.4%と高く、有意差が認められた。(P<0.01)

検診不要を考えている者38名について、その理由をみたのが、図6である。「職場の検診で十分」が39.4%で最も多く、「体の具合が悪くなれば、病院に行けばよい」31.5%、「健康だから」17.9%、「その他」9.9%、「循環器検診だけでは不十分」2.5%の順であった。

5) 望ましい受診間隔

循環器多項目検診を必要と認識している者205名について、検診の望ましい受診間隔に対する考えを見たのが、図7である。総数では「毎年」が64.4%と

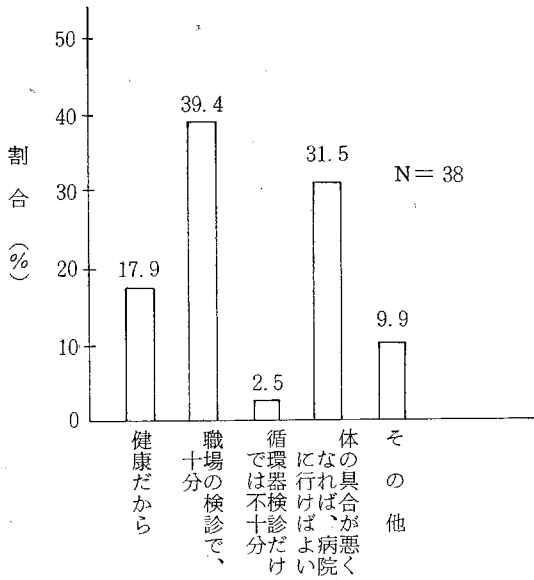


図6 検診不要の理由

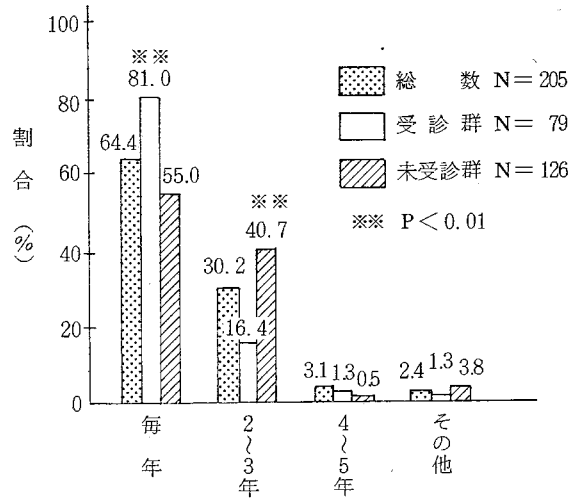


図7 望ましい受診間隔

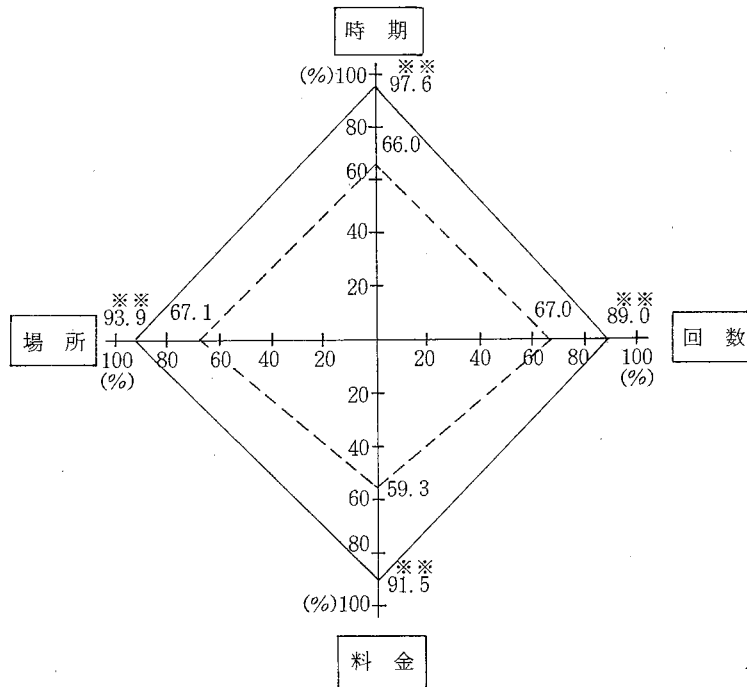


図8 現在の検診体制で「よい」の割合

最も多く、「2～3年」「4～5年」の順であった。

受診群と未受診群を比較すると、「毎年」では未受診群より受診群の方が有意に高かった。また、「2～3年」は未受診群の方が有意に高かった。(P<0.01)

6) 循環器多項目検診の体制に対する意見

循環器多項目検診の時期・回数・料金・場所の4項目について、現状で「よい」という割合を受診群と未受診群で比較したものが図8である。現状で「よい」という割合は、受診群では時期97.6%、回数89.0%、料金91.5%、場所93.9%でいずれの項目についても未受診群より高く、有意の差が認められた。検診に対する意見は、表5に示す通りである。

未受診群の不満足である者の意見をみると、実施時期では「早い」18.3%、「いつやっているかわからない」9.4%、回数では「何回やっているかわからない」25.2%、料金では「いくらかわからない」23.1%、場所は「どこでやっているかわからない」19.9%と、受診群に比べ、「わからない」の割合が高くなっていた。

IV 考 察

普段の生活について、保健行動の実行割合を受診群と未受診群で比較した結果、健康に関する情報源として、「町の広報、回覧」「健康に関する新

聞、テレビ」を両群とも8割以上の者が活用している。「健康に関する本」を活用している場合は、受診群が有意に高くなっている。受診群は未受診群より、積極的な保健行動により健康に関する情報を得ようとしていると言える。

日常生活において両群ともに8割前後の者が、「十分な睡眠」「規則正しい生活」「食事」に注意を払っている。しかし、異常の早期発見、あるいは健康の保持・増進のための機会である「健康教室・健康相談」に参加したり、「血圧」をはかることにより健康管理をしている割合では、両群に有意差が認められた。また、「適度の運動」の実行割合は、両群ともに6割以下であったものの、受診群の方が有意に高い。現在のような生活様式の中では、意識的に健康づくりのために運動を生活の中に取り入れる必要性が高まっているが、実際に運動を実行している人は少ないと言われている。³⁾ 今回の研究においても同様の結果が得られ、特に未受診群にその傾向が強い。

性、年齢、既往歴・家族歴の有無、健康状態の5つの変数について、保健行動の実行割合を両群で比較した結果、特に「健康状態不良」では4つの項目で受診群の方が有意に高くなっていた。

以上のことから、健康を守ろうという意識はあるが、積極的に保持・増進させるという意識は受診群に比べ低いといえる。^{4),5)}

表5 検診体制に対する意見

意 見	受 診 群 N = 8 2		未 受 診 群 N = 1 6 1		
	実 数	%	実 数	%	
時 期	(1) よい	80	97.6	106	66.0
	(2) 早い	0	0	29	18.3
	(3) 遅い	0	0	10	6.3
	(4) いつやっているかわからない	2	2.4	16	9.4
回 数	(1) ちょうどよい	93	89.0	108	67.2
	(2) 少ない	2	2.5	12	7.6
	(3) 何回やっているかわからない	7	8.5	41	25.2
料 金	(1) ちょうどよい	75	91.5	95	59.3
	(2) 高い	2	2.4	28	17.6
	(3) いくらかわからない	5	6.1	38	23.1
場 所	(1) 適当である	77	93.9	108	67.1
	(2) 遠くて不便	3	3.7	22	13.9
	(3) どこでやっているのかわからない	2	2.4	31	19.9

食生活で注意していることについて、「食事に気をつけている」の実行割合は、両群とも80%台である。さらに食生活に関する12項目に関して、気をつけている割合をみると、両群ともほとんどの項目で50%を割っている。一般的に循環器疾患を予防するために減塩の必要性が理解されている⁶⁾が、「味付をうすくしている」割合は両群とも低く、有意差は認められなかった。また減塩の1つの方法である「味そ汁の量をへらした」と「つけ物の量をへらした」の割合も低く、両群の有意差は認められなかった。そのため減塩の必要性と共に、実践に結びつくように減塩指導していく必要がある。

喫煙・飲酒について、「喫煙している」「飲酒している」者の割合は、両群の間にほとんど差は認められない。飲酒者では両群共に「減らしたい」「やめたいと思うがやめられない」が5割であった。これに対し喫煙者は8割と高かった。このことは喫煙の健康に及ぼす害についての知識が普及され⁷⁾、節煙・禁煙により、健康を守ろうという意識のあらわれであるといえる。

循環器多項目検診に対する意見について、受診群では「検診を受ける必要がある」の割合が高く、望ましい受診間隔を「毎年」と考えている者が未受診群より有意に高い。未受診群では21.4%の者が「検診を受ける必要がない」と考えている。症状を自覚する前に異常を早期に発見し、悪化を促進するような生活上の問題点を見出すために、検診の意義は大きい⁸⁾といわれているが、検診の必要性が十分認識されていない。また未受診群では、検診がどこで、何回、いくらで行われているのか分からない者も20%前後いた。現在の検診の時期、回数、料金、場所の4項目について、満足している者の割合も、受診群より有意に低い。

V 結 論

循環器多項目検診受診群と未受診群の、健康に対する意識や行動の違いについて分析した結果、次のようなことが明らかになった。

1. 受診群も未受診群も健康を保持・増進しよ

うという意識は高い。しかし受診群の方が「健康教室・健康相談に参加する」「血圧を測る」など、積極的な保健活動の実行割合が、未受診群より高い。

2. 「食事に気をつけている」という保健行動の実行割合は、両群とも80%台である。しかし高血圧の治療・予防のため、特に注意が必要である。「味付をうすくしている」の項目については有意差はなく、両群とも50%以下と低い。
3. 循環器多項目検診の必要性の認識は、未受診群は受診群より有意に低い。未受診群に対しては、検診の必要性の認識を高め、検診について周知を図るなど受診しやすい検診体制を検討する必要がある。

文 献

- 1) 下杉定人, 他: 健康診査の効果の実施方法調査
- 2) 前沢町, 昭和63年度版保健衛生統計, 4-14, 1989.
- 3) 水谷信子, 他: 保健サービスに関する基礎的研究, 保健婦雑誌, 44, 429-434, 1988.
- 4) 森本兼曩, 他: 健康意識と行動, 公衆衛生, 50, 689-696, 1986.
- 5) 森本兼曩, 他: 健康意識と行動, 公衆衛生, 50, 761-770, 1986.
- 6) 及川イサ子, 他: 減塩指導に関する研究, 保健婦雑誌, 142, 318-323, 1986.
- 7) 国民衛生の動向, 厚生統計協会, 35, 98, 1988.
- 8) 日本看護協会編: 保健婦業務要覧, 日本看護協会出版会, 123, 1987.

著者への連絡先:

〒032 久慈市八日町2-156-1 久慈保健所

Tel. 0194-53-4987

金野真美子

〈付〉

アンケートのお願い

この度、みなさんの健康に対する考えをお聞きし、健康づくりに役立てていくため、アンケートをお願いすることになりました。お忙しい中申し訳ありませんが、よろしく御協力お願いします。

※あてはまるものに○をつけて下さい。

(性別)	1. 男	2. 女	
(年齢)	2. 40~49歳	2. 50歳~59歳	3. 60歳~69歳
(職業)	1. 自営業(農業を含む)	2. 会社員・公務員・団体職員	
	3. 専業主婦	4. 無職	5. その他
(既往歴)	今までに循環器系(心臓病, 高血圧, 脳卒中, 糖尿病)の病気だといわれた事がありますか。		
	1. ある	2. ない	
(家族歴)	あなたの両親・兄弟(姉妹)で循環器系(心臓病, 高血圧, 脳卒中, 糖尿病)の病気にかかったことのある人はいますか。		
	1. いる	2. いない	

I あなたの普段の生活についてお聞きします。あてはまるもの1つに○をつけて下さい。

- 町の広報・回覧をみていますか。
 - いつもみている
 - 時々みている
 - ほとんどみでない
 - 全くみでない
- 健康に関するテレビ・新聞を見ていますか。
 - いつもみている
 - 時々みている
 - ほとんどみでない
 - 全くみでない
- 健康に関する本は買いますか。
 - よく買う
 - 時々買う
 - ほとんど買わない
 - 全く買わない
- 健康教室・健康相談に参加しますか。
 - いつも参加する
 - 時々参加する
 - ほとんど参加しない
 - 全く参加しない
- 血圧を測っていますか。
 - 年に2度以上測っている
 - 年に1度は測っている
 - ほとんど測っていない
 - 全く測っていない
- 健康のため適度な運動をしていますか。
 - いつもしている
 - 時々している
 - ほとんどしていない
 - 全くしていない
- 十分な睡眠・休息をとるように心がけていますか。
 - いつも心がけている
 - 時々心がけている
 - ほとんど気にしていない
 - 全く気にしない
- 規則正しい生活をするように心がけていますか。
 - いつも心がけている
 - 時々心がけている
 - ほとんど気にしていない
 - 全く気にしない
- 健康のため、食事に気をつけていますか。
 - いつも気をつけている
 - 時々気をつけている
 - ほとんど気をつけていない
 - 全く気をつけていない

II あなたは普段食生活の面でどんなことに気をつけていますか。

あてはまるもの全てに○をつけて下さい。

- 3食規則正しく食べるようにしている。
- 間食をひかえている。
- 腹8分目を心がけている。
- 味付をうすくしている。
- 味そ汁の量を減らした。
- 漬物の量を減らした。
- 糖分をとりすぎないようにしている。
- 動物性脂肪をできるだけとらないようにしている。
- 野菜を食べるようにしている。
- 魚や野菜を食べるようにしている。
- 全く気をつけていない。
- その他()

III 喫煙・飲酒についてお聞きします。あてはまるもの1つに○をつけて下さい。

- あなたはタバコを吸っていますか。
 - 吸っている。
 - 以前は吸っていたが今は吸っていない。
 - 以前から吸っていない
- あなたはアルコールを飲みますか。

イ、やめたいとは思わない。
ロ、本数を減らしたいと思っている。
ハ、やめたいと思うが、やめられない。

- (1) 飲む → イ、やめたいとは思わない。
ロ、量を減らしたいと思っている。
ハ、やめたいと思うが、やめられない。
- (2) 以前は飲んでしたが、今は飲んでいない。
- (3) 以前から飲んでいない

IV 循環器多項目検診についてお聞きます。あてはまるもの1つに○をつけて下さい。

1. 検診の時期はどうか。
 - (1) よい (2) 早い (3) 遅い (4) いつやっているかわからない
2. 検診の回数はどうか。
 - (1) よい (2) 少ない (3) 何回やっているかわからない
3. 検診料金はどうか。
 - (1) ちょうどよい (2) 高い (3) いくらか分からない
4. 検診場所はどうか。
 - (1) 適当である (2) 遠くて不便 (3) どこでやっているか分からない
5. 検診をS62年、S63年の間に受けた方で要治療や要精密検査といわれたことがありますか。
 - (1) ある (2) ない

V あなたは健康のために循環器多項目検診を受ける必要があると思いますか。

- 1. 受ける必要がある。
- 2. 受ける必要はない。

イ、毎年受ける必要がある。
 ロ、2～3年に1回は受ける必要がある。
 ハ、4～5年に1回は受ける必要がある。
 ニ、その他 ()

なぜですか
 イ、健康だから
 ロ、職場の検診で十分だから。
 ハ、循環器多項目検診だけでは健康状態を知るのに不十分だから。
 ニ、体の具合が悪くなった時に病院に行けばよいから。
 ホ、その他 ()

VI あなたは健康でないと感じることはありませんか。

- 1. ある
- 2. ない

↓
 どんな時ですか。(あてはまるもの全てに○)
 1. 頭が痛くなった時 2. めまいがした時
 3. 肩がこった時 4. 体がだるいと感じた時
 5. 動悸がした時 6. 疲れを感じた時
 7. 食欲がない時 8. その他 ()

上のような状態の時、どのようにしていますか。

- 1. 病院に行く 2. 体操をして様子を見る。
- 3. 薬を買って飲む 4. 特に何もせず様子を見る
- 5. 横になって休む 6. その他 ()

VII 今年の循環器多項目検診を受けた方にお聞きます。

1. 今年は循環器多項目検診を結核検診と一緒に行いましたが、実施してどうでしたか。
 - (1) よかった (2) よくなかった (3) どちらでもない
 - ↳ 理由 ()
2. 時期はどうでしたか。
 - (1) よかった (2) よくなかった (3) どちらでもない
 - ↳ 理由 ()
3. 料金はどうでしたか。
 - (1) よかった (2) よくなかった (3) どちらでもない
 - ↳ 理由 ()
4. 場所はどうでしたか。
 - (1) よかった (2) よくなかった (3) どちらでもない
 - ↳ 理由 ()